

続

お薬



<13>

よもやま話

柘榴の風格

私の家に一本の柘榴（さくろ）の木があります。鳥取市の実家から、父がモミジ、沈丁花（じんちようげ）、松などととも大阪の家に持ち帰り、移植して慈しむように世話をしていたものです。

私が若草に家を持った時にこれらの一部の苗木を貰

い受けたのですが、このうち移植が難しい沈丁花だけは残念ながら枯らしてしまいました。しかし、松と柘榴は立派な庭木に育って、今では先祖が私達を見守ってくれているような気がしています。

置いて育てたからです。というのも、柘榴の樹皮、根皮を乾燥させたものは石榴皮（せきりゅうひ）と呼ばれる生薬で、イソペレチエリンという有効成分を含んでいて、古来、消化管駆虫薬として用いられてきたから塗布する皮膚薬となるそうです。でも最近はその優れた市販薬があるので、私は柘榴を薬として使ったことはありません。



私が柘榴を選んだのは、また、タンニンを含む果

薬学の道に進んだ縁で何か皮の煎じ汁は下痢、止血に、有用な薬になる木を身近に果汁は水虫、タムシなどに

古武士のような風格があり、「侘び」の趣さえ感じます。

（薬剤師）